

【様式1】

令和5年度 授業改善推進プラン

東久留米市立南中学校 第1学年

教科	学力に関する各調査に基づく生徒の学習状況分析 (数値等で具体的に示す)	具体的な授業改善策及び目標値 (数値等で具体的に示す)	次年度に向けた 自己評価 (A・B・C)
国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>書くことに苦手意識があり、長文を書くことに課題が見られる生徒は全体の10%程度である。</li> <li>漢字や語句の習得に課題が見られる生徒は約15%である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各單元ごとに200字程度の文章を書き、長文を書くことに慣れていくようにする。</li> <li>毎時間漢字練習の課題を出し、提出率90%以上を目指す。</li> </ul>	
数学	<ul style="list-style-type: none"> <li>TBDの結果から、関数領域の正答率が16.5%、空間図形の求積の正答率が28.5%低い。学力向上を図る調査の「数学の学習はどのくらい得意ですか」において、「どちらかといえば得意ではない(21.5)、得意ではない(12.5)」と答えた生徒が34%にのぼる。数学的な思考力・判断力・表現力等に課題が見られる生徒は42%である。また、基本的な計算に課題が見られる生徒は15%である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>知識・技能に関する問題や関数と図形の計量に関する問題を、毎週木曜日の朝に実施している「解く力」を継続して行っていく。</li> <li>基礎基本を中心とした夏休み明けテストを実施し、正答率75%未満の生徒に対し、補習を行う。</li> <li>基本の計算に課題が見られる際には、計算の反復練習の課題を設け5%まで減らしていく。</li> </ul>	
(外国語)	<ul style="list-style-type: none"> <li>会話をする時に必要な例文や語句を提示し、練習した上で自分のことについて話すことができる生徒が全体の約60%ほどみられるが、やりとりや即興的な会話活動力、英作文には課題が見られる。</li> <li>教科書の英文を読む、聞くなどの活動に課題が見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各單元において話す活動や書く活動を毎回行っている。今後は、1学期に練習してきた英文を使うことができるように教師の質問や発話を工夫していく。</li> <li>最初にゆっくり英単語の練習、発音の確認をし、聞くことを意識して読ませ、しっかり読む、聞くことができる生徒を100%に近づける。</li> </ul>	
社会	<ul style="list-style-type: none"> <li>定期考査、小テスト等において、地理的分野での世界各地との時差や気候区分に関する知識及び技能に課題が見られる。</li> <li>定期考査において、思考力・判断力・表現力等を発揮することに課題が見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各単元の学習内容で時差の内容や気候区分に関する振り返りを2回以上取り入れた授業を行い、今後の定期考査や小テストで定着度を確認し、知識・理解の観点でBの生徒を70%にする。</li> <li>授業で習った内容について、自分の言葉で説明・表現する課題に取り組むようにする。</li> </ul>	
理科	<ul style="list-style-type: none"> <li>実験から読み取ったことを考察として表現することに課題が見られる生徒は8割程度である。</li> <li>水溶液の濃度の計算や時間の計算等の計算を伴う課題解決の場面に課題が見られる生徒は8割程度である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>理科の見方・考え方の視点から考察が書けるように、実験結果との関連付けを丁寧に行うことで、B評価の考察の半分をA評価にしていく。</li> <li>計算練習を継続的に行い、計算のイメージができるように、視覚的な情報と結び付けて指導する。計算問題の得点率を20%上げる。</li> </ul>	